



SENSHOJI
2020 YUKARI NEWSLETTER

since 1994

ゆかり通信

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺

VOL. 268

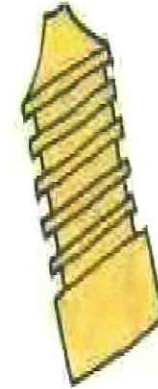
TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

令和 2 年 5 月 ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

KAKUHOZAN SENSHOJI

高野豆腐【こうやどうふ】

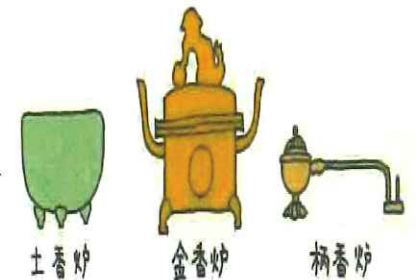
正式名称は凍り豆腐。豆腐を凍結させ、低温熟成したものを乾燥させたもの。たまたま豆腐を外に出していたところ出来たという。高野山で精進料理に使われていたことから高野豆腐と呼ばれるようになった。ちなみに京都・錦小路富小路東北側にある喜久屋には五重塔をかたどった可愛い高野豆腐が人気である。



なんか食べるのがもったいない。。。

香炉【こうろ】

香をくべる炉。鋳物や真鍮で作られた金香炉、陶器で出来た土香炉、儀式の際に手に持つ柄香炉など形も大きさも様々ある。仏壇で使っている香炉では、木をくり貫いたものや、陶芸家が作ったものを使っている人もいて、毎日使うものとして好きな材質で好きなデザインを選ぶのも良い。



極楽【ごくらく】

阿弥陀如来の世界で極楽浄土ともいう。阿弥陀経には「その国の衆生（あらゆる命）、もろもろの苦あることなし、但もろもろの楽を受く、かるがゆえに極楽と名づく」とある。極楽というと、どんな贅沢も願いもかなう楽しい場所というイメージがあるが、それらはすべて私たちの欲求から生まれているもので、あくまで自分にとっての理想郷にすぎない。戦争でわかるように自分にとっての理想を追い求めることは、他所を排除することにつながり、極楽とは言い難い世界にしかならない。極楽とは、あらゆる命が繋がりが合っていて、互いに人のために尽くすことが、同時に自らの苦も取り除くことであり、そしてまたその喜びを人々に伝えていくという世界である。



本文：麻田弘潤著「気になる仏教語辞典」より

浄土真宗的「仏教語辞典」その9 **こ行**

高座【こうざ】

法話の時に布教使が説教する時に座る台。聴衆に見えるように高くなっていて、そこに座って説教する。この高座が今の落語の高座の原形となっている。



業の秤【こうのはかり】

三途の川を渡ると、閻魔大王を始めとする十王による裁判が始まる。7日ごとに裁判を受け続け、49日に判決が出される。4週目には五官王により裸にされ、業の秤に乗せられ、罪の重さを測ることになる。



光背【こうはい】

如来や菩薩から放たれる光をあらわしている。光にあらゆるものを照らす働きがあるので、仏さまの救いに例えられる。仏像が造られた初期の頃は単純に丸形だったが、仏像製作がさかんになるにつれ、さまざまな種類の光背が造られるようになった。

